

2021 年度事業報告書

2021 年度の最大の課題は、新型コロナウイルスの感染を防止し、事業が休止に追い込まれるような事態を回避することであった。結果的には職員や利用者及びその家族に若干の感染者が出たが、いずれも当事業所に起因するものではなく、大事に至ることなく年度末を迎えることができた。事業実績も数字的には前年度と同程度を維持した。

しかし、感染状況は前年度以上に深刻化し、活動は重圧の下で警戒的・抑制的にならざるをえなかった。通常総会をはじめとする各種会議や研修は縮小や中止、オンライン参加を余儀なくされた。事業計画に掲げた車両の更新及び運転者の増員は実現できなかったが、カフェ事業は再開できず、ヘルパーの人材確保も成果がなく、「事業継続計画」策定にも着手できなかった。そんな中で、当初計画になかったデイサービスの定員拡大と職員給与のベースアップを実施した。

以下、項目別に報告する。

◆会員

年度末時点の会員数は次表のとおりである。正会員 64 人のうち 41 人が役員及び職員で、それ以外が 23 人となっている

	本年度末	前年度末
正会員	64 人	65 人
協力会員	15 人	15 人
賛助会員	12 社	12 社

◆機関会議

①通常総会

日時：2021 年 5 月 22 日(土)10 時 00 分～10 時 30 分

場所：特定非営利活動法人クローバー・サービス事務所 2F 会議室

出席：正会員 67 人中 61 人出席(本人出席 3 人、書面表決 58 人)

議題 第 1 号議案 2020 年度事業報告承認の件

第 2 号議案 2020 年度活動決算承認の件

第3号議案 2021年度事業計画承認の件

第4号議案 2021年度活動予算承認の件

感染防止のため書面表決を中心として最少人数での開催し、全議案とも原案通り可決承認を得た。

②理事会

年間3回開催し、それぞれの時点での活動状況や課題を協議した。

第1回 2020年5月8日(土) 通常総会提出議案について

第2回 2020年10月20日(水) 現状報告とカフェ事業について

第3回 2021年3月2日(水) 決算見込と職員の処遇改善について

なお、4月1日付で理事長が荒牧敦子から山下幾雄へ交代した。年度末の3月25日には療養中だった岸野信監事が逝去するという痛恨事があった。

◆職員

①常勤職員

4月に1人採用、10月に1人退職し、年度末で11人である。事務局長1人、ヘルパー部門5人、ケアマネジャー3人、デイサービス2人の配置である。

②非常勤職員

3人を採用したが、退職が4人あり、差引き1人減で、年度末現で27人である。採用は、デイサービスが4月に看護職1人・介護職1人、9月に調理員1人、ヘルパーの採用は無し。退職は、デイサービスが7月に調理員1人、10月に介護職1人、ヘルパーは12月に1人、3月に1人。

③処遇改善

2月分給与から国の介護職・福祉職に対する処遇改善支援事業により常勤の基本給及び非常勤の時給をそれぞれ約2.5パーセント引き上げた。事業補助金(交付金)の対象外職員には自主財源によって同様のベースアップを行った。

◆研修

①内部研修

職員による研修委員会を組織し、職員自身の企画・運営によりヘルパー会議において次表の研修を実施した。

時期	テーマ
7月	感染症
8月	交通安全
9月	非常時緊急時の対応

10月	法令遵守・プライバシー保護
11月	介護技術・接遇
1月	虐待防止・身体拘束排除
2月	認知症

②外部研修・会議出席等

次表の通り、オンライン研修が主流になったため前年度より多く参加できた。

※(z)は zoom によるオンライン参加を示す

時期	テーマ	主催
4月	京丹波町民生委員とケアマネジャー懇談会	京丹波町
6月	福祉職のためのメンタルヘルスケア研修 (z)	京都府社協
	福祉有償運送講習会	NPO 法人福祉ライフ
7月	第90回老人福祉施設看護職・介護職等研修 ～老人保健施設における感染症対策～ (z)	京都府社協
	コロナ禍における高齢者熱中症対策研究会 (z)	京都府
	OJT リーダー養成研修 (1日目)	京都府社協
8月	京都福祉人材認証制度認証スタートアップ セミナー	京都府
9月	京都府看護職・介護職リハビリテーションステップアップ研修 ～生活介護で知っておきたい姿勢ケア～(z)	南丹地域リハビリ支援センター
	OJT リーダー養成研修 (2日目) (z)	京都府社協
10月	アンガーマネジメント研修 [基礎編] (z)	京都府社協
	骨折事例のケアマネジメントを見直そう	京丹波町
	京丹波オレンジロードつなげ隊第1回企画会議	南丹地域包括ケア推進ネットワーク
11月	安全運転管理者講習	京都府警
	OJT リーダー養成研修 (3日目)	京都府社協
	精神保健福祉研修 (z) 精神障害がある方を病院で ないところで支援する～明日から使える支援ヒント	南丹圏域障害者総合支援ネットワーク
	アンガーマネジメント研修 [ステップアップ編]	京都府社協
12月	外出支援事業所会議	京丹波町

	京都丹波オレンジロードつなげ隊第2回企画会議	京都府
	ポップカルチャーから学ぶ"福祉"の視点 「目の前の人とどう向き合うか」(z)	京都府社協
1月	京都丹波オレンジロードつなげ隊第3回企画会議	京都府
	介護従事者のためのBCP作成セミナー(z)	社団法人中部産業連盟
	介舟ファミリー-意外と知らない使える便利機能・訪問系 スケジュール編-(z)	日本コンピューター コンサルタント
	広報力レベルアップ講座(z)	京都府
2月	認知症の人とその家族を支えるためのケアマネー ジャー育成事業フォローアップ研修(z)	京都府介護支援専門 員会
	わたしと社会福祉～福祉職の道を歩み始めたあなた へ届ける～(z)	京都府社協
	広報力レベルアップ講座(z)	京都府
3月	京丹波町子供を守る地域ネットワーク協議会個別 支援会議関係機関研修会	京丹波町
	第2回京丹波町地域ケア推進委員会及び第1回京丹 波町地域包括支援センター運営協議会並びに第2回京 丹波町地域密着型サービス運営委員会	京丹波町
	「ゴイッショ」オンライン説明会(z)	ダイハツ工業
定期	地域ケア会議	京丹波町

◆広報活動・その他

①情報発信

広報誌『クローバーだより』を毎月約400部発行し、会員、利用者、関係機関等に配布した。11月にはインターネットの独自ドメインを取得し、合わせてホームページをリニューアルし、フェイスブックによる発信も開始した。

②その他

NPO法人まごころサービスあい愛と連携し、おせち料理22食を配布した。
日本財団チャリティー自動販売機収益より5,600円を日本財団へ寄付した

◆「助け合い」事業

①ヘルパー活動

利用者は年間15人であった。介護保険超過分の振替えが大多数で、本来の「助け合い」利用は少数であった。頻回な利用者の施設入所等があり、回数・時間とも前年度より大幅に減少した。

住民税非課税の利用者 13 人に対し京丹波町高齢者日常生活支援事業により利用料を減免し、その合計は 66,500 円であった。

※利用者数「合計」は、各月利用者実数を年間合計したもの、以下各表とも同様

〔利用実績〕	月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者数(人)	5.0	7	3	60	56	107%
回数(回)	41.3	66	25	496	738	67.2%
時間数	31.40	59.25	16.00	367.75	764.9	49.3%

②カフェ事業

コロナ禍により 2020 年 3 月から休止してきたが、本年度も再開する状況に至らなかった。休止が長期化し、今後も現在の会場でカフェを再開することは困難であると判断し、家主の理解を得て年度末をもって 2013 年以來の賃貸契約を解約した。他用途へ転用することも検討したが有効策は見出せなかった。

かつての利用者を中心に再開を望む声も多く、京丹波町新庁舎内のカフェ併設計画への応募するなど、別施設で再開することも検討したが実現できなかった。

◆外出支援事業（福祉有償運送）

利用者数、回数、走行距離ともに前年度を 1 割程度上回った。運転者講習会はコロナ禍のため近隣で開催がなく、6 月に 2 人を奈良県内へ派遣して資格者を増員した。

老朽車両を更新し、車いす利用の増加にも資するため、京都府福祉有償運送支援事業の採択を受けて車いす対応車 1 台(ダイハツタント)を 2 月に導入した。

〔利用実績〕	月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者数(人)	68.2	75	51	818	750	109.1%
回数(回)	225.6	270	158	2,707	2,438	111.0%
走行距離(km)	2,012.8	2,816.8	1,399.3	2,6157.3	2,4153.3	108.3%

◆障害者居宅介護・重度訪問介護事業

新規利用が 3 人あり、人数、回数、時間数ともに前年度を上回った。ヘルパー不足のため毎日型の派遣依頼や南丹市域からの要望に応じられず、重度訪問介護 2 件も断らざるを得なかった。

〔利用実績〕	月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者数(人)	10.3	12	9	123	101	121.8%
回数(回)	106.8	129	78	1281	1071	119.6%
時間数	100.44	121.0	71.5	1,205.25	1,000.0	120.5%

◆介護保険事業

①居宅介護支援

感染予防のため活動は大きな制約を受けた。不本意ながら利用者宅への訪問を電話で代替したり短時間で切り上げたりしなければならず、サービス担当者会議は書面で行い、研修へはオンラインで参加した。感染した利用者を介護保険外の「泊りサービス」にゆだねたケースや、家族が感染した利用者にデイサービス利用を自粛してもらったケースがあった。

利用は新規が15人あり、入所や死亡等による停止が12人あって、月平均では約65人となり、前年度をわずかに上回った。利用者全体の高齢化が進み、認知症の悪化等による死亡、施設入所が増加傾向であった。

〔利用実績〕		月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
件数	介護	63.3	67	57	760	735	103.4%
	予防	4.6	7	3	55	55	100.0%
	総合	0.1	1	0	1	7	14.3%

②訪問介護

新規利用者が11人、入所や死亡等による停止が9人あった。ヘルパー配置の調整がつかず、依頼に応じられなかったケースが15件あった。

前年度と比較すると訪問回数・時間とも約8パーセントの減少だったが、次表のとおり「介護」が減少し「総合」が大幅増となったため、事業収益としては19パーセント弱減収した。

感染症対策として京丹波町内の各事業所に「ヘルパーの集い」を呼びかけ、当事業所の職員が講師を務めて防護衣の着脱研修を実施した。他事業所のデイサービスが感染により休業に至った際には、代替して訪問サービスを提供した。京都新聞社会福祉事業団の助成を受け利用者とのコミュニケーション用に「助聴器」を2台取得した。

〔利用実績〕		月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者 数(人)	介護	42.1	45	39	505	525	96.2%
	総合	4.6	5	4	55	46	119.6%
回数 (回)	介護	446.5	492	391	5,358	5,997	89.3%
	総合	27.7	38	18	332	190	174.7%
時間数 (時間)	介護	433.48	493.83	395.08	5,201.74	5,854.93	88.8%
	総合	27.79	37.00	18.00	333.50	190.00	175.5%

③通所介護

新規利用者が11人、施設入所や死亡による停止が8人であり、訪問介護同様、総合事業対象者の利用が大幅に増加した。

毎月の予定時点ですでに定員に達することが多く、増回や変更の希望に応じられない状況が続いたため、これを改善すべく2月に定員を15人から17人へ拡大した。

感染予防としては、消毒の徹底、こまめな換気、食事時の飛沫防止のためアクリル板使用、職員・利用者ともに検温・健康チェックの実施、空気清浄機の活用等を励行した。利用者に対してもマスク着用の徹底や外出・買い物レクの抑制等を求めるなど、窮屈な処遇とならざるを得なかった。

介助、清掃ボランティア各1人を受け入れた。

〔利用実績〕		月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
開催回数(回)		25.7	27	24	308	309	99.7%
利用者数 (人)	介護	35.5	38	34	426	424	100.5%
	総合	3.8	4	3	46	16	287.5%
延利用者 数(人)	介護	316.3	378	281	3,796	3,836	99.0%
	総合	15.6	22	9	187	41	456.1%
1回平均(人)		12.93	14.7	12.2	12.93	12.55	103.1%

以上